



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

# 大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 21 年 (2009)

奉祝 天皇陛下御在位二十年

平成 21 年 新春号【83号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

## 主な目次

古代エジプトの思想に戻ろう……………	2 頁
新春初詣……………	3 頁
三笠宮同妃両殿下御参拝……………	4 頁
早春の行事……………	5 頁
杜の話題……………	7 頁
どんぐり通信……………	10 頁
初宮詣芳名……………	11 頁
正月社頭風景……………	12 頁



元旦零時、境内に響き渡る一番太鼓【一月一回】

平成二十一年己丑歳の新春に当たり  
 天皇陛下御在位二十年を言寿ぎ、  
 謹んでご皇室を中心とする国家の隆昌と  
 氏子・崇敬者の皆様のご清福を熟禱申し上げます

宮司 録田 紀彦

宮様の御出版記念の会

昨年は珍しく台風の上陸が一度も無く、神門の夫婦銀杏の黄葉が例年になく、色美しく太陽に映えておりました。また、昨年は天皇皇后両陛下が御即位されてから二十年奉祝の佳き年であり、しかも当宮にとりましても昨秋は三笠宮同妃両殿下に御成り頂き御参拝を賜りました事は、誠に感激の極みでございました。御祭神に於かれましても、御心を充分に御嘉納に相成り定めし御欣懐の御事と拝察させて頂いている次第でございます。

実は大殿下には七年前の平成13年の秋にも一度お参り頂いておりますが、その時小生は九州へ出張中で不在に致しておりました。大殿下は戦前、士官学校時代に行軍で度々当宮へのお出ましがあり、前回はその思い出の場所を懐かしく回想され、銀杏黄葉を踏みしめ乍ら境内を御散策なされたこと承っております。今度の参拝はその時に次ぐ御成りとなり、しかも妃殿下とお揃いでお参り頂く光栄に浴したのであります。

尚、今度の御成りについては古代オリエント研究者で大殿下と極く親しいお仲間の方々と、前回も一緒に参り下さった村治笙子女士（古代エジプト学）を中心に有志4名の方々によつて殿下の御著書『わが歴史研究の七十年』のご出版記念のお祝いの会を、当宮で開催しようと企画されたものであります。



村治女士は当宮の近隣にお住まいの崇敬者で

当宮敬神婦人会（りんどう会）にも入会されております。古代エジプト学の研究者で、壁画やヒエログリフ（聖刻文字）の研究をされ著書もあります。年中殆どエジプトへ出張されたり、日本各地での講演の傍ら古社巡りをされ、古神道にも造詣深く研鑽されていたりと大変お忙しい方で、日取り（10月31日）は早い時期に決まっていたのですが御成りの打合せが出来ず、具休化したのは2、3日前でありました。その点不届きの点が多くあつた事と思つております。

当日は、正午に御成りになり両殿下お揃いで御神前にお進み頂き、親しく紅白の立玉串を奉り御参拝を賜りました。皇族として誠に真摯に御拝礼されるお姿を拝し、恐懼と共に感服させて頂いた次第であります。御拝のあと社殿より御退出時には丁度満開の大宮桜（冬桜）を御覧になられ、御参拝記念と御出版記念の植樹をお願い致し、「高野慎」のお手植えを賜りました。その後第30回杉並大宮菊花展をお揃いで御台覧を頂くなど境内を散策の後、御出版のお祝いの会へとお進みになりました。

お祝いの会には私共夫婦も陪席が許され、楽しく和やかな家庭的なご歓談の裡に進められ、ご予約より1時間40分も伸び、午後3時40分お開きとなり、御帰還になられました。ゆつくりとお寛ぎの御様子でありました事は何よりの事と存じております。天皇陛下御即位二十年の慶賀に相応しい両殿下の御参拝でございます。

その後、12月2日午後2時大殿下の御誕生日に当たり、宮付宮務官殿より私共夫婦にもご案内状を頂戴致し参邸させて頂きました。御誕生日のお祝いと改めて御成り御礼を言上申し上げ、御参拝記念の写真集を献上させて頂きました。お陰様で両殿下に恐れ多くも親しく御挨拶をさせて頂き、その上、高円宮妃殿下を始め御息女の近衛甯子様、千容子様とお目にも掛かりお話しをさせて頂きました事には身に余る光栄であり、出合いのご縁の有り難さと大切さを実感させて頂いた次第でございます。



お手植えの高野慎

太陽と水の神を忘れた文明

此の度の御参拝がご縁となり、古代エジプトの思想が、私共の神道思想に非常によく似ていると云うことを知りました。古代エジプトに於いて太陽の神ラーが壮大な自然哲学の中心的存在で一番に崇拜されていること。その次に重要な神は水の神インシスが崇敬されていた事でありました。

我が国に於いても、日の神（天照大御神）が一番尊い神様で、伊勢の皇大神宮（内宮）にお祀りされており、皇室のご祖先であり全国神社の本宗と仰がれております。その次は水の神様（豊受大神）で外宮にお祀りされております。

又、日本仏教（密教）の中心の佛様は、太陽の佛（大日如来、次は水の佛（十一面観音）とされています。西洋文明はギリシアとイスラエル文明から始まると云われておりますが、当然古代エジプト文明の影響が強くあつたと思われませんが、何故か永い間に亘り太陽の神を忘れてしまつた様であります。

これはギリシアとイスラエルも遊牧民族であり、農業を基盤とする民族で無かつたことも大きな原因なのでしょう。それに科学技術の発達は、自然は人の為存在し、意のままに征服出来るものとされていきました。しかし乍ら自然は有限であると共に、地球温暖化現象や環境問題等から自然保護がクローズアップされて参りますと、今、今までのが考え方が間違つていたということによりやがて気づき始めております。原点の太陽と水の信仰。謂わば、太陽と森の文明を復活させることが、自然再生にも結びつくのです。

そうして古代エジプトの思想にも思いを馳せ、自然に存在するあらゆるモノに魂が存在し、靈性を認めてきた日本古来の伝統の思想（神道）に根ざしたグローバルな自然観に立ち返り、自然との共生思想の普及に努めて行かねばならないことを、今更乍ら教えられ、再確認させて頂くことが出来ました。

今年の新春もご神威輝く当宮のご社頭にお詣り頂き、神々のご神縁を更に深く結んで頂き、幸せ多き年でありませう祈念致し年頭の挨拶と致します。



大晦日年越の大祓に引き続き除夜祭を斎行し、いよいよ平成二十一年己丑歳の新春を迎えます。元旦午前零時、世界的金融危機など世を覆う暗雲を吹き払うが如く初太鼓が鑿鑿と神域に響き渡り神門を開門。今年一年が幸多かれと真摯に祈る参拜者で境内が埋め尽くされるなか年明けの諸行事が始まります。先づ神々と同体となつて新春を祝福されると云われている神能「翁」が観世流能楽師野村四郎氏により奉奏され、厄除開運大祈禱（一番祈禱）が宮司奉仕により斎行されます。

元朝の午前八時、天皇陛下御在位二十年を慶祝して歳旦祭が斎行され、皇室国家の隆昌・世界平和に併せて氏子崇敬者の平安と繁栄が祈念されます。新春二日、境内大前では弓の除魔神事大式的が小笠原流ご宗家以下ご奉仕により古式に則り執り行われ、鎌倉絵巻が再現されます。そして翌三日は皇位の元始を言寿ぐ元始祭が斎行され、宝祚の天壤無窮を祈念して、今年一年が始まります。

奉祝 天皇陛下御在位二十年  
あけましておめでとうございます

# 新春初詣

観世流能楽師野村四郎 神能「翁」  
小笠原流除魔神事奉仕の儀。大格式

平成二十一年	春の祭典と主な行事
1月1日	神能「翁」 厄除開運大祈禱（一番祈禱） 歳旦祭
1月2日	小笠原流墓目の儀・大格式
1月3日	元始祭
1月7日	昭和天皇祭遙拝
1月15日	古神札焼納祭（どんと焼き）
1月25日	初天神祭「大宮天満宮」
1月26日	文化財防火フェー・消防演習
2月3日	節分祭
2月6日	初午祭「大宮稻荷神社」
2月11日	紀元祭
2月下旬	梅盆栽展
3月上旬	木瓜盆栽展
3月春分	春季皇霊祭遙拝
4月3日	神武天皇祭遙拝 本宮遙拝
4月29日	昭和祭
5月3日	春の大祭 稚児行列（3日） 尚武祭（5日）
5月5日	御嶽権安神社例祭「御嶽権名社」
5月16日	大宮八幡宮の杜新能
5月16日	裏千家献茶式
5月23日	

毎月1日 朔旦祭（とんど）自由にて  
毎月15日 月次祭（ご参列出来ませう）  
毎月最終の土曜日又は日曜日  
大宮八幡宮フリーマーケット

毎月・お朔日参りを  
致しましょう

謹賀新年  
平成二十一年元旦

大宮八幡宮 代表役員 宮司 鎌田 紀彦 責任役員 住持 高橋 徳雄 五木 千徳 梅田 清夫 藤枝 宏友 瀬川 寿友 黒澤 浩一 松島 四郎 毛塚 克彦 青木 龍一 笠原 憲章 鈴木 憲章	和田東地区 梅田 清夫 松村 康夫 佐藤 洋一 野村 紀男 藤原 恭一 齊藤 洋一 佐藤 康夫 野村 紀男	飯高今朝資 飯高 朝資 飯高 朝資 飯高 朝資 飯高 朝資 飯高 朝資 飯高 朝資 飯高 朝資 飯高 朝資 飯高 朝資	松ノ木地区 松島 四郎 松島 四郎 松島 四郎 松島 四郎 松島 四郎 松島 四郎 松島 四郎 松島 四郎 松島 四郎	兼務神社総代会長 堀ノ内熊野神社 成宗白山神社 大高 正朝 尾崎熊野神社 岩田 和保 安藤 雄次	大宮八幡宮敬神婦人会 会長 鎌田 芳枝 副会長 高橋 秀子 五木 美延 堀友 美延	方南地区 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎	方南南地区 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎	大宮地区 荒井 昭治 荒井 昭治 荒井 昭治 荒井 昭治 荒井 昭治 荒井 昭治 荒井 昭治 荒井 昭治 荒井 昭治	小関 昭治 小関 昭治 小関 昭治 小関 昭治 小関 昭治 小関 昭治 小関 昭治 小関 昭治 小関 昭治	青木 龍一 青木 龍一 青木 龍一 青木 龍一 青木 龍一 青木 龍一 青木 龍一 青木 龍一 青木 龍一	毛塚 克彦 毛塚 克彦 毛塚 克彦 毛塚 克彦 毛塚 克彦 毛塚 克彦 毛塚 克彦 毛塚 克彦 毛塚 克彦	田城 治夫 田城 治夫 田城 治夫 田城 治夫 田城 治夫 田城 治夫 田城 治夫 田城 治夫 田城 治夫	黒澤 浩一 黒澤 浩一 黒澤 浩一 黒澤 浩一 黒澤 浩一 黒澤 浩一 黒澤 浩一 黒澤 浩一 黒澤 浩一	相川 真雄 相川 真雄 相川 真雄 相川 真雄 相川 真雄 相川 真雄 相川 真雄 相川 真雄 相川 真雄	三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎 三枝 治太郎	方南北地区 高橋 雄雄 高橋 雄雄 高橋 雄雄 高橋 雄雄 高橋 雄雄 高橋 雄雄 高橋 雄雄 高橋 雄雄 高橋 雄雄	細野 住雄 細野 住雄 細野 住雄 細野 住雄 細野 住雄 細野 住雄 細野 住雄 細野 住雄 細野 住雄	岩田 文治 岩田 文治 岩田 文治 岩田 文治 岩田 文治 岩田 文治 岩田 文治 岩田 文治 岩田 文治	廣田 圭治 廣田 圭治 廣田 圭治 廣田 圭治 廣田 圭治 廣田 圭治 廣田 圭治 廣田 圭治 廣田 圭治	岩崎 圭治 岩崎 圭治 岩崎 圭治 岩崎 圭治 岩崎 圭治 岩崎 圭治 岩崎 圭治 岩崎 圭治 岩崎 圭治	鈴木 憲章 鈴木 憲章 鈴木 憲章 鈴木 憲章 鈴木 憲章 鈴木 憲章 鈴木 憲章 鈴木 憲章 鈴木 憲章
---	---	--	--	--	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---	---

# 三笠宮同妃両殿下御参拝

三笠宮同妃両殿下には去る十月三十一日、当宮に御成りになり、御参拝されました。両殿下には同日正午、当宮に御到着、清涼殿貴賓室にて御少憩ののち宮司の先導で社殿に進まれ、修祓、豊栄の舞のあと玉串拝礼。殿下、妃殿下の順に各々紅白の立玉串を御奉奠になり、御親拝遊ばされました。次いで、記念の植樹として高野槇をお手植になり、第三十回杉並大宮菊花展もお揃いで御台覧頂きました。

境内御散策のあと清涼殿で催された殿下の御著書『わが歴史研究の七十年』の御出版のお祝いの会に臨まれました。同書は旧約聖書やオリエント史研究に没頭された七十年の御軌跡が描かれ、主要論文と御講演や御随想なども収録された、まさに殿下の御研究の集大成ともいえる御著書。ことに「歴史はらせん状に推移する」との御指摘は国民が刮目すべき歴史眼として一読すべき御著書です。

お祝いの会は古代エジプト学の村治筈子女士を中心に関下とごく親しい古代オリエント研究の長井道子、岡田明子、小林登志子の各氏等に当宮宮司夫妻も陪席、和やかな御歓談の裡に進められ、両殿下もおくつろぎの御様子でございました。



# 大宮八幡宮 早春の行事

## 古札焼納祭(どんど焼き神事)

毎年小正月の1月15日午前10時よりご神前で「月次祭並び古神矢・古神札等焼納奉告祭」を斎行、次いで社殿前広場を斎場に、年末年始の参拝者の皆様が納められた古い御神札・御守等を積み上げ、古神矢・古神札等焼納祭(どんど焼き神事)が盛大に執り行われます。



お焚上げ祭では、祝詞奏上の後、火鑽神事が行われます。轆轤(轆轤)を使って浄火を熾(熾)こし、積み上げた古神札等に点火。そして、燃え盛るお焚上げのご神火の前で神職等が大祓詞を奏上し、一年間の感謝と除災が祈念されます。古来よりこの神火にあたること無病息災・健康になると信じられています。又、この日は、当宮敬神婦人会

(りんどう会)の皆様のご奉仕により、厄除ぜんざいが授与されます。

## 文化財防火デー消防演習

「文化財防火デー」は、法隆寺金堂壁画の焼失の教訓から1月26日に設けられた日で、当宮ではこの日に恒例の消防演習が行われます。

演習は、当宮自衛消防隊と杉並消防署・杉並消防団、杉並消防ボランティア活動団体との連携や地元町会の協力によって行われ、火災発見・通報連絡・避難誘導・初期消火から、

## どんど焼きにご協力をお願い

今年も環境汚染対策を含め、伝統行事のお焚き上げ神事を今後とも存続させる為にも、ご神札等をお納め頂く際に全て点検・選別させて頂き、**神社関係以外のもの・燃えないもの・有毒物質の発生恐れのあるもの(プラスチック製品等)・包装紙は、その場でお持ち帰り頂いております。**何卒、予めご理解の上、お持ち込みにならぬ様ご協力の程をお願い致します。

◆御守り・古神矢・古神札類及び正月飾り(注連縄など)をお預かり致します。

◆人形類は、別途に人形感謝祭をご奉仕してお納め頂いておりますので、直接祈祷受付所へお申し出下さい。(但し、ぬいぐるみはお預かり出来ません)

社殿への二斉放水による鎮火までを、本番さながらに演習が行われます。演習終了後は水消火器を使った初期消火訓練が消防署員の指導に依って行われます。



## 節分祭(豆撒き神事)

2月3日は節分。節分とは立春の前日、大寒の終りの日です。古くは立春を正月とし、節分を大晦日と同様に忌み籠る習慣が地方によって残っており、厄除けの祈願は節分までにとの考えはこの辺り由来しています。

そして、この季節の分かれ目に皆様の開運と身体健勝を大神様に祈念申し上げる節分祭



が午前10時より斎行されます。祭典では、古儀に則り桃の弓・葦の矢で「天・地・人」を射る追儺神事が行われ、続いて社殿前にて邪気を祓う豆撒き神事も執り行われます。

## 紀元祭並檀原神宮遙拝

2月11日は建国記念の日(紀元節)。神武天皇が大和の橿原の宮で即位されてより二六六九年。この日、全国各地で我が国の建国を言祝ぐ諸行事が行われます。当宮でも午前10時より紀元祭が斎行され、万世三系の天皇(今上陛下は第125代)によってしるしめされる我が国の上を偲び国運の隆昌と世界の平和をご祈念申し上げます。



## 大宮稲荷神社 初午祭

2月初めての午の日に、稲荷大神が京都・伏見の峰に天下りされた由緒から、この日には全国各稲荷神社で初午祭が斎行されます。当宮境内社の大宮稲荷神社でも、6日の午後1時より初午祭が斎行されます。

真新しい  
百数十本の  
朱色の初午  
のぼりの立  
ち並ぶ稲荷  
神社に、のぼ  
り奉納者等  
崇敬者の参  
列のもと祭  
典が斎行さ  
れ、五穀豊穡  
をはじめとし  
て、皆様の家  
内安全や商  
売繁盛が祈念  
されます。



又、兼務社の堀ノ内熊野神社・成宗白山神社・尾崎熊野神社、境外社の谷中稲荷神社の各稲荷社でも初午祭が執り行われます。

### 第25回梅・木瓜盆栽展

立春を過ぎ境内の梅の花が綻び始める頃、大宮八幡宮梅の会の主催により、第25回の「梅・木瓜盆栽展」

### 初午のぼり奉納募集

毎年2月の最初の午の日を初午（本年は2月6日）と云い、お稲荷さまのご縁日として親しまれています。

お稲荷さまは、ご存知のよう  
に商売繁盛・家内安全など、八幡さまと並んで広く親しまれた信仰のある神様で、当宮でも境内末社に大宮稲荷が祀られています。本年も大宮稲荷神社の初午祭を賑々しく執り行いたいと存じますので、左記により商

が2月下旬より4月上旬まで開催されます。先ず梅の盆栽が開花し、境内の梅と併せて満開に、続いて木瓜の花も咲き揃い、芳しい香りが参拝者の心を和ませます。

### 大宮八幡桜まつり開催

4月が近付くにつれ、境内の桜が少しずつ花を綻ばせ、続いて当宮を中心とする和堀公園（旧境内）一帯は善福寺川沿いに数千本の桜が妍を競い、まさに桜一色となります。これら桜の開花に合わせ、当宮では3月下旬から4月初旬まで「大宮八幡桜まつり」を開催致します。

期間中の土曜・日曜に限り、夜間参拝（午後8時まで開門、開門中は和堀公園への通り抜け可能）を実施。ライトアップされた桜に篝火の炎揺らめく幻想的な雰囲気の中、甘酒と季節限定の桜薯蕷饅頭を味わい、風情たつぷりの夜桜がお楽しみ

売繁盛・家内安全等を祈願されまして「朱色のぼり」を是非ともご社頭にご奉納賜りますよう、ご案内致しお願い申し上げます。

#### 記

一、朱色のぼり一口三、〇〇〇円  
（出来れば二対二口以上でお願い致します）  
のぼりには、御氏名（又は会社名）を入れて  
させて頂きます。



頂けます。また、「夜桜の神遊び」として、雅楽と神楽舞の奉納演奏も予定されております。



### 戌の日まいりは

当宮の子育八幡さまで  
安産祈願のご祈禱を！

### 戌の日早見表

（平成21年1月～平成21年5月）

5月	4月	3月	2月	1月
5日(火)	11日(土)	6日(金)	10日(火)	5日(月)
17日(日)	23日(木)	18日(水)	22日(日)	17日(土)
29日(金)		30日(月)		29日(木)

赤字は大宮の戌の日です

### 厄除け祈禱のご案内

厄年に当たる方は、厄除開運の信仰の篤い当八幡宮に於いて、厄除けのお祓いをお受けになり、清々しい一年に致しましょう。

### 平成二十一年厄年表(数え年)

男	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和61年生(24歳)	昭和60年生(25歳)	昭和59年生(26歳)
	昭和44年生(41歳)	昭和43年生(42歳)	昭和42年生(43歳)
女	前 厄	本 厄	後 厄
	平成4年生(18歳)	平成3年生(19歳)	平成2年生(20歳)
	昭和53年生(32歳)	昭和52年生(33歳)	昭和51年生(34歳)
性	昭和49年生(36歳)	昭和48年生(37歳)	昭和47年生(38歳)
	昭和25年生(60歳)	昭和24年生(61歳)	昭和23年生(62歳)

※厄年(やくどし)は、古来人生の節目として特に気をつけなければならぬとされている年回りのことです。本厄の前年は前厄、後年は後厄に当ります。厄年に限らず、除災招福の厄除祈願を受けることが出来ます。

# 杜の話題

## 大宮八幡祭り(秋の大祭)

天皇陛下御即位二十年奉祝の大宮八幡祭り(秋の大祭)が9月15日の例大祭を中心に斎行され、期間中境内は多くの参拝者で賑わいました。

まず13日夕刻には宵宮祭が執り行われ、翌14日午前10時には氏子奉幣祭を斎行。大宮・方南・和田・松ノ木の氏子四地区よりの赤誠籠もるご浄財が氏子幣として大前に献じられ、奉幣使(祭礼委員長)により氏子祈願詞が奏上されました。この日、日中は氏子各町会の神輿が次々に社参。そして夕刻午後6時



よりは、第23回神輿合同宮入りが行われ、各氏子地区より8基の神輿が威勢良くご神前に練り込み、城西随一同も云われる神輿振りに、境内は熱気と興奮の坩堝と化しました。15日午前10時よりは例大祭が神社本庁より献幣使参向のもと斎行され、大宮幼稚園園児による朝日子の舞・佼成雅楽会による舞楽が奉奏され、皇室国家の安泰と秋の収穫を感謝し、氏子・崇敬者等の更なる繁栄を祈念致しました。

また神域では、7日の弓道奉納射会を始めとし、13日は園児民謡踊り、方南エイサー踊りや杉並太鼓の奉納、14日は小笠原流宗家による弓の神事「三三九手挟式」の奉納の他、高井戸囃子によるバザー・ガールスカウト達によるバザーが開かれ、例大祭当日の15日には裏千家淡交会東京第7西支部による野点茶会も開かれました。

## 第10回 菊被綿飾り

さくらのきせわた



当宮では、重陽の節句の宮中行事「菊被綿」を平成11年の天皇陛下御即位十年を奉祝して現代に再現。以降毎年催され、御即位二十年の

昨年、第10回を迎え大宮八幡祭り(秋の大祭)に合わせて9月9日より16日までの間、再現・展示されました。菊被綿は重陽の前日9月8日に、菊の花を真綿で覆って菊の香りを持ち、9日の朝に露で湿ったこの真綿を顔に当てて若露を願うもので、平安前期の宇多天皇の御代、宮中の行事として取り入れられました。今回より拜殿向拝下にも三色の菊鉢(各三色の九鉢)を設え、8

日の夕刻菊被綿神事を斎行し、翌9日早朝露を含んだ真綿を御日供祭に併せて、ご神前へ献供して献納祭を斎行致しました。菊被綿の奉製には当宮ガールスカウト等にも奉仕頂き、菊花の上それぞれ三色の真綿が被せられました。菊被綿は、マスメディアにも取り上げられNHKの特集「キク百科」(12月2日放映)や(財)日本真綿協会発行の『真綿語で』にも、全国の綿の神事と共に当宮の菊被綿飾りが紹介されました。

## 第8回 十五夜の神遊び

緑濃き鎮守の杜の聖なる空間で、昨年も例大祭当日の9月15日の望月に第8回「十五夜の神遊び」が斎行されました。夕刻、ご参拝の皆様には、先ず献灯神事として凡そ千百基の竹燈に火を灯した後、ご社殿にお進み頂き祭典(中秋祭)にご参列。次いで神楽殿を舞台に神楽舞や雅楽の奉奏をご陪観。



引き続き、午後7時より「月の音コンサート」として、二胡奏者の芳晴氏とピアノ奏者のシモシユ氏による奉納演奏を自然の豊かな神苑でご陪観頂きました。雲間から時折覗く月明かりにすだく鳴虫の音に、竹灯にゆらぐ火あかりと古式ゆかしい音色は、雅びと幽玄の世界そのもの。千名を超えるご参拝の方々に神々と一体である事をご感応頂けたひとときでありました。

午後8時過ぎより、一胡の調べの余韻覚めやらぬ陪観の人々(月見御膳ご予約の方)は、ご神前から撤下された月見団子と衣被ぎの里芋がお供えされ、竹燈や薄等で飾られた月見の宴(当宮結婚式場 清涼殿)で、御神酒を召し上がりながら月見に因んだ「月見御膳」に舌鼓を打ちながら会話と食事が進み、雅びと幽玄にひたすら至福のひとつときをお過ごし頂き、来年の再会を楽しみにお開きとなりました。なお、第9回「十五夜の神遊び」(月の音舞台)は平成21年10月3日(土)に予定されております。

## 藤枝役員が全国総代会表彰を

去る9月5日福岡市で開かれた全

国神社総代会大会で、当宮責任役員  
の藤枝友友氏が、多年に亙り神社の  
護持運営に尽力されたとして、同会  
設立五十周年記念表彰の栄に浴され  
ました。謹んでお祝い申し上げます。

### 永福小けやきの森コンサート



9月12日夕  
刻、永福小学  
校屋上を舞台  
として催され  
た「けやきの  
森コンサート」  
と題したお月  
見の会。天候  
にも恵まれ、  
満天の星空の

下、ヴァイオリンの演奏や絵本「月  
のうさぎ」の朗読に続いて、当宮職  
員による「越殿楽」と「陪臚」の演  
奏が行われ、450名を超える児童と父  
母達が雅楽の音色を楽しみました。

### 優良防火対象物認定証

### 幼稚園『優マーカー』取得

去る9月26日、  
杉並消防署より  
当大宮幼稚園に  
防火安全に努力  
している施設と  
して表示出来る  
優良防火対象物  
認定証（優マー  
ク）が交付され



ました。平成 18 年  
3 月より施行され  
たこの制度、入退  
館管理や監視カメ  
ラの設置・非常時の備蓄・AED 設  
置等の取り組みが評価されたのも  
初の認定とのこと。今後とも安全  
な環境の中、園児等の健全な育成  
を目指してまいります。



### 永職会例会を開催

神社累代祠職の有志が集う永職  
会（会長千家  
尊祐出雲大社  
宮司）の第 85  
回例会が去る  
10月27日、当  
宮で開催され  
ました。例会  
には青森から  
福岡まで全国  
各地の宮司さ  
ら 30 名が出  
席。まづ例会開催奉告の昇殿参拝  
が行われ、千家会長に合わせて玉串  
拝礼のあと、清涼殿を会場に例会を  
開催、諸案件が議せられました。  
また山田宏杉並区長をお招きし  
『いまこそ「日本よい国」運動を』と  
題する卓話がありました。山田区長  
は自己中心のモラル低下の現世情の  
閉塞感から立ち直る為に十年に近  
い区政を踏まえて、如何にして宗教  
心や道徳、歴史伝統を取り戻して行



くか、強い信念のもとに日本再生論  
を展開され、最後に新日本国憲法の  
前文の草案も示され、参加者一同の  
共感を呼びました。このあと和やか  
なうちに懇親会も進められました。

**第 30 回 杉並大宮菊花展**

杉並区内外在住の菊愛好家の方々  
によって、丹精込めて作られた数々の  
作品が出品される杉並大宮菊花展。  
第 30 回の昨年  
度は、10 月 24  
日より 11 月 24  
日にかけて当  
宮神門内特設  
展示場で開催  
されました。

この菊花展  
は杉並区の後  
援、京王電鉄  
（株）、サミット（株）の協賛を頂き杉並  
大宮菊の会（会長・五本木徳治当  
宮責任役員）主催により毎年催さ  
れています。30  
回目の昨年は特  
に盆栽菊が例年  
より多く 46 鉢出  
品され（都内で  
は珍しい）との  
事）これを中心  
に盆栽菊・懸崖・  
七五三の文字菊  
や小菊盆景も多  
数出品され、会  
員の皆さんが丹



精込めて育てた 34 鉢もの菊花が第  
30 回に相応しく爽秋のもと妍を  
競っていました。

また、11月7日の審査会で宮司  
賞以下各賞の受賞が決まり、12月  
3日に表彰式が執り行われました。  
特に第 30 回を記念して、永年の功  
労者に表彰状と感謝状が宮司より  
手渡されました。

宮司賞  
杉並区長賞  
会長賞  
大宮八幡宮責任役員賞  
京王電鉄賞  
サミット賞  
みどりの会会長賞  
審査委員長賞  
日本香菊会賞  
末柄賞  
藤枝賞  
八幡前通商栄会賞  
創立 30 周年記念表彰  
表彰状・記念品贈呈

本橋利夫氏（神代の彬）  
五本木徳治氏（聖光の朝）  
宮崎孝雄氏（天女名所）  
井上良介氏（国華全山）  
林みよこ氏（国華聖者）  
井上良介氏（久米の満山）  
本橋利夫氏（国華全山）  
宮崎栄子氏（国華金山）  
倉本栄子氏（国華上京）  
渡辺忠雄氏（北の紫炎）  
稲村実氏（泉郷玉穂）  
佐久間亨氏（国華聖者）  
五本木秀子氏（聖光華宝）

吉田悦章顧問  
宗田栄一相談役  
五本木徳治会長  
本橋利夫副会長  
井上良助副会長  
瀬賀輝一相談役  
瀧澤政次副会長  
中村幸之輔副会長  
佐久間亨副会長

感謝状・記念品贈呈

**齋藤山形県知事ご一家ご参拝**

山形県知事の齋藤弘様ご一家が去  
る 11 月 2 日午後、ご長女の七五三詣  
りで当宮に参拝されました。

齋藤知事は日本銀行勤務時代、  
和田に住んでおられ、当宮の氏子で  
あったことから平成 18 年（第 16 回）



及び平成19年(第17回)の杉並花笠祭りにもご参加。今度はわざわざご一家で東京、ご参拝を頂きました。知事はこの七五三詣での模様をご自身のブログで紹介されていますがご長男・ご次男も七五三詣でを、また三方とも初宮詣でも当宮でされたとのこと。「これにて我が家の『子ども時代』のお祝いである七五三を終えることに。一つ一つ、家族史が刻まれる」と温かい眼差しで結んでおられます。

### 敬神婦人会が御垣内清掃

当宮敬神婦人会(りんどう会)では秋の例大祭大宮八幡祭りを前に9月1日朝、御垣内清掃をご奉仕されました。御垣内は瑞垣に囲まれた御本殿周りの神域。平素は禁足地で、境内の内でも特に清浄な聖域。この日は社殿で修祓を受け、心身を清めた鎌田会長ら15名の会員らが参入、お白石の間に挟まった木の葉を丁寧に取り除くなど清掃のご奉仕をされました。

### 鎌倉へりんどう会懇親旅行が

りんどう会の懇親旅行が11月6

日行われ、鎌田会長始め21名が参加しました。会員相互の一層の親睦を計ろうと始められたこの事業は昨年に続き二回目。今回は鎌倉方面



面に向かい、鶴岡八幡宮の昇殿参拝や江島神社参拝、また小町通りを散策して紅葉黄葉の美しい晩秋の古都の風情を満喫の様子でした。

### 幼稚園稲刈り祭

本年も新潟県三條市在住の阿部修様よりご奉納頂いたコシヒカリの早苗を、5月のお田植え祭で当宮幼稚園の稲田において園児達が一株一株丁寧に田植えをしてより百数十日、去る9月24日晴天の下、稲刈り祭が斎行されました。豊かな太陽と水の恵みを受けて黄金色に実った稲



を、園長先生が先ず見本の稲を刈り、続いて園児等もそれに倣い刈り取りました。初めて使う鎌に緊張した面持ちで慎重に刈り取

り、自らの手で育てて収穫した稲穂を感慨深げに眺めておりました。

### 秋の美りに感謝 新嘗祭斎行

勤労感謝の日の11月23日午前10時より120名を超える方々のご参列を頂き新嘗祭が斎行されました。新嘗祭は、新穀を大神さまにお供



えして秋の収穫を感謝する祭典です。宮中を始め、全国津々浦々の神社でも行われています。当宮幼稚園の園児等が収穫した稲穂の初穂をはじめ、篤志家やボーイ・ガールスカウト、氏子・崇敬者、各企業よりの新穀や清酒、野菜・果物など数多くの供進品が庭積神饌として献納されました。

### 第18回 杉並花笠祭り

18回目を迎えた地元冬の風物詩「杉並花笠祭り」(主催…サミット(株)、(株)サミット・コルモ、大宮八幡宮)が12月13日(土)に開催されました。当日、午前10時よりご社殿にて杉並花笠祭開催奉告祭を斎行の後、特設ステージでは御神酒の鏡開きを皮切りに各種の催し物が次々と執り行われ、特に午前と午後

の、花笠踊りが東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店会婦人部とサミット役員の方々がご参列の皆さまによって奉納されました。参道では山形



### 新春初詣旅行募集

新春吉例の伊勢参宮旅行。平成21年1月27日(火)〜29日(木)にかけて二泊三日の「伊勢参宮と長良川・濃路めぐりの旅」が実施されます。初日は伊勢への途中「斎宮歴史博物館」を拝観し、伊勢神宮「外宮」で御垣内特別参拝。その後、鳥羽池の浦「海の蝶」で宿泊。

第二日は伊勢神宮「内宮」を参拝。太々神楽を奉納し御垣内特別参拝して、新年の更なる繁栄と幸せを祈念。次いで岐阜の「伊奈波神社」に参拝後、長良川温泉の「すぎ山」に宿泊。最終日は犬山市の「大縣神社」と「田縣神社」を参拝致します。お誘い合わせ頂き、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

★詳細は、当宮社務所(03-3311-0105)までお尋ね下さい。(平成21年1月10日×切り)



### おいもほり (年少組)



10月のある日、年中・年長組が園バスで近くのお芋畑へ出発した後、幼稚園ホール横の小さな畑に年少組の子ども達が集まりました。ハートの形をしたお芋の葉でいっぱいのお芋を見て、期待に胸を膨らませている子ども達。数人ずつ力を合わせて「よいしょ、よいしょ」の掛け声と共に芋を引っ張り張ってみました。途中で切れてしまったり、長い長いつるをどこまでも引っ張っている子もいました。全ての葉を取り除くと出てきたのは、土。いよいよ土を掘ってみると、出てくる出てくる沢山のさつまいも。子ども達に見せるのと「わー、すごいー！」と大喜び。今年は大豊作!! 大きなお芋(15〜20cm位)がなんと26個にちび芋ちゃん(9個)も収穫できました。年長さんが思いを込めて植えてくれた苗バスの運転手のおじさん達が付かない様に見守ってくれたり、時々畑に声をかけていた年少さんの思いが、沢山のお芋を実らせてくれました。

その後、好きな葉っぱを取ってお土産に収穫したばかりのお芋は洗うときれいな紫色になって、子ども達

も達は目をキラキラ輝かせて見ていました。そのお芋を薄くスライスして、油で揚げて塩をまぶして皆で頂きました。「おいしいね♪」と自然の恵みに感謝しながらニコニコ笑顔で食べていました。次の日は、昨日のお芋に加えて、年中・年長組さんが掘ってきたお芋を分けてもらって、スウィートポテトを作りました。ふかしたお芋を小さな手で丸めて、チョコやプリンツをトッピング。お芋に囲まれたおいしいおいしい二日間でした。

園児作品展開催  
毎年、神社の大銀杏黄葉が黄金色に色づくころ幼稚園園児らが創意工夫を凝らして作り上げた作品の展示会が開催されます。昨年も大変穏やかな小春日和の中、11月22日に開催されました。



教諭 丸山尚子

また各保育室でも、子ども達がお父さんお母さんに自分の作品を誇らしげに説明したり、親子の楽しい会話が弾んでいました。



### 結婚式挙式者芳名(敬称略)

(平成20年9月1日〜12月22日)

- 奥村直義・真由美 中野勝・未知留
- 金田和朗・明香 今野泰生・美香
- 長田瑤介・綾乃 小林功・萌映
- 柿田祥誉・悦子 石井繁臣・郁乃
- 大友洋祐・優子 富田慎二・美之
- 川越啓孝・富美子 渡邊誠・明日香
- 岩崎尚之・晴美 吉川直志・早紀子
- 山岸亮一・真理子 鶴田雅士・誠和
- 大澤光志・美穂
- 高須徳治・公重
- 高橋正倫・泉

大宮八幡宮が育成母体

## BS・GSスカウト募集

ボーイスカウト 杉並13団  
ガールスカウト 東京62団

スカウト 募集中

小学一年生から各学年ごとに入団できます。

お問い合わせは、当宮社務所へ

もり  
緑豊かな都心の杜。  
正統派神前式

成人式 卒業式  
衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清涼殿 03(3312)7515

# 初宮詣芳名

(平成20年7月16日、平成20年11月23日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- 茂山愛奈 小池晏聖 木谷充希 平澤拓美
- 岩崎ひなの 本多晴陽 田畑礼穂 浜口真奈
- 新妻穂海 井藤こなみ 熊谷直己 平位紗彩
- 館山海音 北村笙太郎 佐藤佑紀 今井華音
- 瀬川愛一朗 北村凜夏 谷合琉翔 堀悠吾
- 成川和葉 吉野世莉 高橋秀星 三好太陽
- 飯島遼士 田中紗南子 置田真央 植松愛真音
- 横山しえ 渡邊玲音 原田新 難波悠生
- 村松杏菜 サルウシ 石丸心愛
- 高橋良 小峰雫 川真田悦奈 平石龍ノ介
- 中村武義 岩崎宥真 横尾小翼子 矢吹陽大
- 細田彩貴 石川嵐丸 永村優太 山本美波
- 岩田悠吾 蛭田來夏 萩野杏奈 辻航成
- 宮川義史 小林真大 阿武浩輔 古澤南海子
- 片岡真弥 佐野天音 山本沙良々 矢倉智奈
- 佐々木啓伍 高橋由衣 有川波音 荒尾柳舞
- 西垂倫沙 鷹蒼侑生 辰日陽南 荒尾剛仁
- 石谷拓巳 芦川郁仁 須藤小豆谷 川悠心一朗
- 竹花優 小柴莉那 大阪晴斗 菊池杏
- 菅原圭吾 長谷川蓮 大柳奏真 奥田遥人
- 石橋海 日笠かもめ 中島尚哉 井手上奈緒
- 中嶋美緒 石川泰士 金澤志信 藤田真陽
- 古口悠仁 青島結月 太田茉結莉 内山智貴
- 高田莉妃 藤倉茉莉奈 江畑優真 菅田晴飛
- 佐川拓海 熊倉寛太 植田康太 横山大直
- 三島雅貴 浅川百花 山岡遥希 小林駿文
- 梅澤颯汰 デジモン 川島未結 飯塚明
- 柚須琴音 ナツ悠人 川島未結 飯塚明
- 竹内康晴 川上まかな 佐藤海璃 藤井勇空
- 白崎楓佳 澤井遙 佐々木瑞 藤井勇空
- 西村拓真 中島杏夏 荒川くるみ 船田風生
- 八重沢瑠己 提督左近 橋本彩 本永朱花
- 渡辺大晟 山崎芯 安藤悠成 長谷見唯菜
- 荒川香貴 佐々木亜美 千葉慎ノ介 真崎淳
- 天野心響 住吉智晴 森柚音 伊藤拓
- 堀内瑛仁 本倉有翔 尾脇康太 長田のか
- 西井琥太郎 山崎裕大 松田心晴 日根野航騎
- 鈴木啓太郎 村井アカリ 木住野真那 前田啓輔
- 虎戸光葉 糟谷輝 阿部菜奈美 吉成穂乃
- 島田怜英 近藤陸翔 鈴木恵太 長田梨沙
- 西澤諒哉 森居俊之介 内田喜悠 室山実緒
- 曾根シロウ 入野巧 竹田旭 諏佐瑞紀
- 小島夏音 黒須柊文 水野里美 松本凛
- 清水大翔 渡辺天晴 木下大悟 関口えみり
- 小村ねね 渡辺天晴 松下勇人 岡村茉百子
- 丸茂友美 海老原花帆 高林知輝 原蒼人
- 西村琴 丸老原花帆 渡井結月 元木暖人
- 竹田烈 野本有希 水野芳夏 小島彩良
- 河野天空 矢島陽向 水野芳夏 小島彩良
- 緒方雄太郎 桃井涼羽 二二三夏希 篠崎加奈
- 新川結奈 岡田空 糸久幸桜 押尾幸祐
- 野口耕平 竹内浩介 高崎城人 永瀬未悠
- 三宅路子 服部千星 和田佳音 比江島惺禾
- 日垣輝久 小坂井美羽 小林雅治 小田原光政
- 對馬加恋 重田空来 北村優衣 佐藤みらい
- 本多利乃 加固優吾 江袋楓人 山口泉
- 相原瑞樹 長田壮石 栗崎史織 田口淳
- 櫻井史子 伊藤夏優 新芽ノシ凜 木原桃花
- 中内貴美子 野口佳蓮 吉村藍花 石橋真
- 中澤有希人 ゴメン愛綺 杉山歌野 山崎真有
- 高橋和誠 菊池健石 小川悠吾 三宅愛夏
- 矢内涼介 小川原美優 浦野由菜 立花八雲
- 中澤有希人 ゴメン愛綺 杉山歌野 山崎真有
- 桃井詩章香 阿邊真夏 宮平優多 中村成琳
- 千葉友乃 阿邊心夏 鈴木真織 猿渡悠貴
- 河合凜奈 小川三由菜 藤佐叶望 坂田陸
- 豊島ひより 田添愛佳 松本紗英 梶本拓駿
- 篠澤豪志 赤津知織 中村英理 藤井遥大
- 森涼真 島田龍之介 西川匠 上田優衣
- 早川真央 菅野翔 諸原大悟 原悠夏
- 坂井美蘭 務中翔生 諸原有悟 渡邊涼音
- 茂手木秀明 黒岩香愛 綿拔葵 上野花火
- 井上誠 椎名華耀 青木漣 伊藤美空
- 本田愛 平山一輝 田中優大 小澤菜汰
- 後村紗良 前田美柚子 青柳彩恵 村山優月
- 中林琥太郎 牛尾和咲 松本恒汰 高原陽輝
- 坂田海斗 吉田隼 後川ころ 大平悠貴
- 水石草吾 大槻明日加 兵藤華輔 三井辰之甫
- 富永鷹太 山下颯人 小倉康太郎 山下凜
- 佐川倫 浅岡空 標純也 阿部夏帆
- 行松清永 黒田悠子 吉田光希 藤井円香
- 江口舞香 根本瑛太 森脇慧 竹内葵
- 池田直矢 依谷歩美 森脇慧 竹内葵
- 荒木日葵 箱山史恩 木村莉子 梅森稔生
- 関根健二 数野裕太郎 池淵愛斗 神山稔子
- 閑根健二 川村唯斗 向坂天花 石川類
- 安部季紗乃 佐藤莉里亜 石川類 北岡ひまり
- 三澤雷夏 吉川大獅 沖本紗和 天野匡
- 原口璃音 金子奈津希 阪下佑垂 中村悠志
- 吉井智人 中野空理 森田光太郎 後藤瑛仁
- 大塚康生 柏田悠羽 児島悠太 板橋颯汰
- 瀬戸佑樹 大野瑠夏 高橋悠生 鈴木絢音
- 武井哲平 鈴木花音 藤井智沙伎 河本詩恩
- 海野杏奈 神田桃果 小浜藤子 関根美梨
- 松本哲弥 鶴谷舞生 児玉燦 吉坂千尋
- 福井萌夏 品川瑠渚 松廣剛之 吉田壮佑
- 福澄理南子 堀ノ内瑠愛 仲村一克 肥後秀人
- 川本夕夏 林田拓磨 小林慧月 本田晟仁
- 加藤貴裕 百村優人 堀越琴美 谷口栄
- 大行瑛 伊東晴渡 山崎琳虎 橋爪秀寿
- 川上レイア 大嶺優樹 有澤航平 田中祥真
- 中村朔也 大野由由美 丸林大倫 石井江利那
- 瀬戸結希 橋本直耶 金沢健伸 秋元美鈴
- 宮本蓮太郎 阿部愛花 橋本大輝 岩本七海
- 町田凜生 横山希和 内藤華 川谷美月
- 宮本日向 佐藤愛海 長島杏菜 鳥越詩葉
- 櫻井萌夏 大平紗也香 清田舞都 千葉愛華
- 星野早紀子 吉田絢斗 古川遼 澁谷瞳
- 藤岡なつき 大石鍊 主浜有海 阿部健太
- 豊田悠真 中村優月 林優芽 山田大輝
- 一色理彩子 中村航 栗崎碧 浦中花南
- 尾上珠希 森絵美里 大塚るな 中村綾那
- 中山桃寧 後藤悠希 瀨野尾歩花 河合俊介
- 永富佑和子 小俣希音 多田真子 秋元駿作
- 伊藤胡桃 比嘉利央奈 丹野旭陽 榎原あおい
- 田村遥 桑原碧月 倉石凌和 熊谷優吾
- 杉山雄一 徐智亮 市川葵埜 桑原優和
- 日比野颯斗 幡野優也 山口優太郎 石井ゆあ
- 戸田勝吾 河野夏希 山口優太郎 内藤莓果
- 片田江玲奈 森山朝瑛 中溝慎吾 松本瑛斗
- 篠嶋祐太 東謙 梶塚葵 竹本葵
- 伊澤悠樹 内山航 鈴木生太 岡田陽瑛
- 中村悠志 内山夢芽 鈴木生太 岡田隆吾
- 齋藤彩維 當間悠己 平出航也 渡部ちひろ
- 五十嵐音羽 宮田融 國枝侑生 岡大智
- 石井汎奈 塩田雄一朗 平沼叶羽 三橋柚己
- 松下心優 工藤渚彩 小林智惺 草野千英里
- 中村璃音 小笠原将太 増田悠河 土屋凛
- 多田知弘 三浦美陽 大祐拓輝 勝浦優朱
- 森永梨紗 林心美 森光里 本稿政典
- 石井琴子 森久保博斗 飯田慎太郎 村上愛実
- 大木梨緒 國分瑛太 山口花 高野悠世
- 小野塚未森 笹井風歩 小野由菜 櫻井翔太
- 花里美月 矢崎真緒 渡邊耀 山田澤
- 月原凜久 大重美維 増田綺海 野津玲月
- 関根榮留 古澤大輝 三上珠奈 野田将孝
- 大石元稀 田村想 大石時久 儀賀一真
- 内田有亜 嶋内琴凜 藤澤直大 藤澤直大
- 小川心愛 川又大翔 新島裕奈 新島裕奈
- 塚田宗汰 道下玲生 高橋昂大 高橋昂大
- 見本柚希 渡邊一輝 倉成英菜 倉成英菜
- 山田和洋 相馬宏多 山崎千愛 山崎千愛
- 景田結心 村上大樹 副島勇佑 副島勇佑
- 松井初樹 阿久津菜 赤尾雄太郎 赤尾雄太郎
- 齋藤ゆな 土肥辰光 土肥辰光 土肥辰光
- デジイ仁人 森田深広 森田深広 森田深広
- 大德里莉 小野雅実 渡邊優 渡邊優
- 松山直汰 小関隼 中村瑠那 中村瑠那


**平成21己丑年迎春**

新年にはご祈祷（ご祈願）をお受けになり、清々しい一年に致しましょう



新春を言祝ぐ神能「翁」の奉奏



厄除開運大祈祷（一番祈祷）齋行



元朝、歳旦祭齋行



元日午前3時、多摩清水社にて若水汲み



立正佼成会庭野会長らご参拝



小笠原流新春除魔神事、家元ご奉仕

**大 宮 第83号**  
**平成21年新春号**  
 平成21年1月1日発行  
**大宮八幡宮社務所**  
 〒168-8570  
 東京都杉並区大宮2-3-1  
 電話 (3311)0105 FAX(3318)6100  
 Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp



御守等を求める参拝者で賑わう社頭



心身健全守

紅白干支土鈴

えんむすび守



どんど焼き、火鑽神事にて忌火を熾くす